

アジア地域ビジネス論B		講義	教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200202	

1. 授業のねらい・概要

アジア地域ビジネスにおける先端的な動きについて、具体的な事例を用いながら体系的かつ理論的に学ぶことをねらいとする。また課題となっているアジア地域の経済活動における生産性、直接投資、為替等に関する経済理論を学ぶとともに、日本だけでなく欧米とアジアの関係についても取り上げる。特に今日におけるアジア地域ビジネスの大きな背景ともなっている各国の産業政策についても取り上げる。また「受講生が考える起業」についてもテーマとして取り上げる。

2. 授業の進め方

テーマにとって必要な経済理論については、適宜紹介し解説する。板書及び OA 機器を用いながら、自筆ノートの作成を目指す。ミニッツ・ペーパーを用いて、質問を募り次の授業の冒頭において対応する。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方とテーマの概説）	9. アジア地域ビジネス各論①（情報産業を中心に）
2. アジア諸国間の産業構造の変化と新興国の動き	10. アジア地域ビジネス各論②（EVを中心に）
3. アジアに新たな産業構造と新たな自由貿易協定	11. アジア地域ビジネス各論③（サービス産業を中心に）
4. アジアにおける新たなビジネス環境①（東南アジア）	12. 経営戦略のための指標①（財務指標を中心に）
5. アジアにおける新たなビジネス環境②（南アジア）	13. 経営戦略のための指標②（株価指標を中心に）
6. アジアのサプライチェーンに見る新たな動き	14. 起業についてどのように考えるか
7. 日本企業の中心的産業に見る直接投資動向	15. アジア地域におけるビジネスの新たな動きについて整理、総括する。
8. 米国の通商政策とアジア地域におけるビジネス環境	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

アジアを中心とした国際経済に関心のある受講者は、予習として参考文献はもとより経済専門紙を中心に日々1～2時間程度目を通すことが求められる。講義の復習には理論を中心に、概ね2時間程度は必要であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個別に公表する。宿題については復習あるいは予習を内容とし、ミニッツ・ペーパーによる提出を求める。宿題の解説については次の授業の冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

アジアにおけるビジネス活動がどのような考え方、理論に基づいて行われているかを学修し、ビジネスの経済学的な基本を身に着けることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、特に限定しない。授業において適宜、論文、資料、データ等を配布する。参考文献は、藤田昌久・若杉隆平【編著】（2011）『グローバル化と国際経済戦略』（日本評論社、4600円+税）、法政大学比較経済研究所/田村明子【編】『国際競争力を高める企業の直接投資戦略と貿易』（日本評論社、4000円+税）。

9. 受講上の留意事項

2年次前期の「アジア地域ビジネス論A」（前期）については受講済みであることが望ましい。また、1年次後期の「日

本とアジアの経済」, 同じく 1 年次の「グローバル化と国際社会 A・B」を履修しておくことが望ましい。今日のアジア地域ビジネスの動きについては, 経済専門紙を日々講読することも重要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。